

吾輩は猫である。名前はまだ無い [1]。

どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。



図 1 夏目漱石の写真（引用元：[夏目漱石 - Wikipedia](#)）

参考文献

- [1] 夏目漱石. 吾輩八猫デアル. 大倉書店, 1905.